

平成28年度 第2回学校評価実施報告書

2 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 			
分野	評価項目	(1回目評価を踏ました) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かに学力	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間の授業の展開を指導者自身が明確にもって授業実践をする。 ・児童の主体的な学習を保証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画を提示して授業をすること ・授業が楽しいと思っている
	家庭学習・自学自習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で宿題の内容の検討をする。 ・よくできた自学ノートを掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもには、家庭学習の習慣が身に付いている。
	基礎・基本的な知識や技能の習得と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックタイム(漢字・計算)の充実・徹底 ・調べ学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導の徹底 ・ミニテストの評価 ・ジョイントプログラムの結果
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育活動で話し合い活動や、協力して行う活動を十分に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣い ・PTA、地域行事にできるだけ参加している
	自他を大切にする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの励行、学校のきまりの徹底 ・いいじめ、暴力の排除 ・自他ともに大切にする人権意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつ・きまりを守っていますか ・友だちと仲良く過ごすことができていますか
健やかな体	運動及びスポーツの実践と体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや部活動、スポーツを通した運動の習慣化 ・運動を通してコミュニケーション力や論理的思考力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで体を動かしたり遊んだりしていますか ・体力テストの結果 ・体育学習のふり返り確認
	安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」について教育活動全体を通して計画的に指導を行う。(高野中学との合同避難訓練) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校での安全に気をつけていますか ・きまりを守っていますか ・避難訓練のふり返り確認
独自の項目	学校組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に基づく教育課程のPDCASサイクルの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に教育課程を進められていますか(教職員) ・校務分掌の取組の定期的な確認と次年度に向けて



自己評価			
評価日	平成29年2月10日	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からあと振り返りを明確にした授業をする項目が前期より上昇している。 ・家庭学習の習慣が身に付いているの項目が、前期調査より1.2P上回った。 ・ベーシックタイムの充実を図るために、開始時刻を守る取組を進めたことで、落ち着いて学習ができるようになった。 ・一人一人が認められる学級づくりをすることの項目が、前期を1.6P上回っていた。 ・正しい言葉遣い、あいさつの習慣を身に付けることができたと児童は78% ・生涯体育と外遊びの推進をするという項目が1.4P上回った。 ・校内の取組を他校に向けて発信することができた。 ・さらに向上していくために、一定期間の取組を振り返る機会を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援として、必要・適切な掲示物を活用し、授業を開催する教員が増えた。 ・懇談会を開くたびに、家庭学習の重要性を話したことにより、家庭での生活習慣が定着し、限られた時間の中でも子どもとの対話をする時間を決めている家庭が増え、家庭での学習時間が決められるようになことが成果である。 ・お互いの取組を交流する時間をとることで、時間を守ってベーシックタイムの学習活動を確実にとれるようになった。 ・学級が居心地のよい場所となるために、何が必要かを協議した。できることを認め、自尊感情を高めていくことの大切さを確認し合った。 ・授業時間は、教師自身が正しく丁寧な言葉遣いをすることで、児童の見本となることや、友達を思いやる言葉かけを推進することを再度共通理解した。 ・休憩時間に子どもとともに遊ぶことを通して、体を動かすことの楽しさを伝えることができた。 ・これまでの実践をさらに高めていくために、中学校ブロックで合同避難訓練を行ったり、支部の安全主任研修会をもつことで、取組を振り返ることができた。 ・各分掌においてのPDCAサイクルを共有できるところまで高めていくようにすることの重要性を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の家庭生活の中で、スケジュールを組むことの重要性を今後も保護者に訴えていくことが必要である。 ・お手伝いすることを決められている家庭では、充実した時間を過ごしている児童が多いことや対話を大事にしている家庭の情報を発信し続けていく。 ・ベーシックの時間を大切にするとともに、家庭での読書の時間の少なさから、朝読書の時間も充実させていく工夫が必要である。 ・誰もが認められたい、褒められたいという思いをもつていい。学校だけでなく、地域の方々とのふれあいの中で、自己有用感をもてるよう地域行事への参加を働きかけるようになる。 ・学校と地域とが協働して子どもたちを育んでいくような機会や交流の場を設定できるようにする。 ・地域の方に部活動の指導を見ていただくことで、運動を通してコミュニケーションを楽しめるようにする。 ・児童の日常生活の安全の意識向上を図る取組を進めていくことを継続したい。 ・常に意識化を図ることが必要であり、各分掌主任が責任をもってPDCAサイクルを意識できるように研修を積んでいただきたい。 	



学校関係者評価	
評価日	平成29年2月28日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会 学校評議員による改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・個の実態に応じた授業支援を工夫されている様子が授業参観を通してよく分かった。 ・若い先生方が多いが、お互いに切磋琢磨されていることが分かり、大変よい。 ・家庭学習が定着している反面、家庭での読書の時間が少ないので残念である。 ・児童の学力向上のために創意工夫されていることがよく分かった。 ・褒められてうれしくない人間なんていらない。誰もが認められる学校、養徳地域でなければならない。 ・学校での「みんなに認められている」という実感をもてる取組を進めていることは素晴らしい。 ・生涯体育につながる活動を行っていることはよいことである。 ・災害が起った時を想定して中学校校区で避難訓練が行えたことはよいことだ。 ・学校組織の向上は、常にPDCAサイクルを意識し、共有していくところまで学校が考えていることがよく分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が提唱する週1回の「NO TV DAY」はうまくいくのだろうか。試してみる価値はあるかと考えるが、把握等が難しいため、他の方法を探ってくればならないのではないか。 ・家庭の教育力の向上は、なかなか定着しにくい課題であろう。よい手法をたくさん保護者に提唱していくために、近隣の小学校との情報交換をしていくとよい。 ・子どもは、学校だけではなく地域全体で育んでいくものだから、保護者を含め、地域行事にもっと顔を出して、地域の方々とつながっていく必要がある。 ・地区の体育振興会の活動にも児童が結構参加している実態がある。継続していくことが大事である。 ・学区の避難場所は、養徳や高野中学であるが、校区の端の地域は、松ヶ崎小の方が近いところもあることを知つておいてほしい。 ・全教職員が理解するまで、時間がかかるかと思うが、しっかりと取組を進めていってほしい。

3 総括・次年度の課題

- ・養徳で大事にしてきた安全教育が他校に広がり、今年度は中学校ブロックでの合同避難訓練を行ったことや、支部安全主任会への発信も行うことができたことは成果である。次年度は、全市に向けてさらに情報発信できるように、取組内容を向上させていきたい。
- ・児童の学力向上に向けて、各種調査結果を踏まえて、てこ入れが必要である。どんな力を身に付けていきたいのかを一人一人の教職員が明確にした日々の授業を構築し、児童が主体的に学べるようにしていくことが必要である。
- ・小中連携の取組が、本年度前進した。SSHの取組では、次年度発表校となることからも、さらに自分の思いや考えを大勢の前でしっかりと伝えられるような力を身に付けられるようにしていくことが必要である。そのためには、若年教職員自身がプレゼン力を高められるように研鑽を積んでいきたい。